

ネットワーク情報学部

教授 田中 稔

読めば読むほど味の出る本ということで、この本が浮かんできた。平成元年の発行だが、今読んでもこの本の筆者の感慨、思いが伝わってくる。

インターネット社会の現代では最早当たり前となっている光通信、その光ファイバーの有効性に初めて気づき、「発明者」として知られている故西澤潤一東北大学名誉教授。そのほかにも発光ダイオードなど数えきれないほどの発明があり、未完のノーベル賞候補といわれ続けていた。この本は彼の半生を綴ったものであるが、独創的な仕事を行う苦悩、闘いなどが良く伝わってくる。さらに所々で引用される語句や言葉が印象的でもある。「愚直一徹、大道無門」、「自分をごまかさないという一点で、私は確かにかなりの頑固者である」、「頭をいじめぬいたからこそ、“頭が強く”なった」等々。

どうやら、「独創」に必要なのは秀才が持つ「賢い頭」ではなく、自分をごまかさない「強い頭」のようである。

『独創は闘いにあり』（新潮文庫）
西澤潤一
(1989, 新潮社)

【所蔵情報】

生田分館 本館展示中	資料ID	701127631
	請求記号	X/080/Sh61/Nis
神田分館 Knowledge Base 展示中	資料ID	109586305
	請求記号	/507/N87/